



いじめの世界

エプソン通信員 末吉郁子

市内の小学校でとても悲しいできごとが起きました。いじめの話で始まった報告だったけれど、それはもう「いじめ」などとは呼べない、とり返しのつかない「犯罪」でした。

大人の世界、家族間、職場、どんなに「偉い」といわれている人たちの間にもいじめはあるといえます。そのグループの中でリーダーである人がやれば周りの人も同じようになり始め・・・。

「やっつていい」とカン違いするのです。

身近な例でいえば、学校の職員室でいじめが起こればいじめられた先生は自分のクラスの生徒をいじめるかもしれない。いじめられた生徒は家に帰って弟や妹、飼っている動物をいじめるかもしれない。

私が小学生のとき、ある友だちにいじわるをしていました。中学生のときも別の子を目の敵のように辛く当たりました。私が思春期の頃、両親が不仲で家の中が暗かったです。けれど自分が幸せでないからといって他の人を傷つけていいはずがありません。

高校生になるとともいじわるな友だちができました。短大に進むとまた新しいいじわるな友だちに出会いました。

大人になって考えました。なぜああいうことが私に起きたのか。いじわるされたという思いはなかなか消えません。でも今はわかります。この人たちは私にいじわるをしてたことを思い出させてくれたのです。

もしあなたがいじめられていたら・・・必ず逃げる場所はありません。必ず誰か、

聞いてくれる人がいます。いったん、その場から離れて探してみてください。

そしてあなたは誰かをいじめてはいませんか。もしいじめをしていたとしたら、きつと自分をきらいになってしまっているでしょう。なぜ自分がそれをしてしまうのか、見つめ直してみてください。きつと、とても辛い経験があったのではないのでしょうか。でも、自分のしたことは必ず自分に返ってくるということを忘れないでください。

子どもの世界でいじめが起ころるのは大人の責任です。理由はどうあれ、大人になってもいじめをやる人は幼稚で弱くて、心まで大人に成長できなかった気の毒な人です。2人以上で1人を、もしくは弱い立場の者を攻撃すればそれはもういじめなのです。

いじめはなくなるならない、という人がいるけれど本当にそうでしょうか。世界一幸せと言われてるヨーロッパの国でもいじめはあるそうです。その国のよい所を見習って学校や職場、行政など社会全体が良くなればいじめは減ると思うのです。そして手本となった国で、もっと意識が高まればそこでのいじめはなくなるかもしれない。

いじめをなくす。そう決めたら周りを見わたして、まず自分にできる「行動」を起すことがいじめの世界を変えられる第一歩ではないでしょうか。



やっつていいか...

茶 77

秋の恒例「普天間参詣」

秋の恒例と言えば、何でしょうか？運動会、読書週間、色々と思いつくかぶかと思えます。

琉球王国時代（日本の江戸時代）の宜野湾では、旧暦9月（現在の暦では10〜11月頃）、琉球国王が普天間宮（現普天満宮）を参詣するというのが、秋の恒例でした。

これは「普天間参詣」と呼ばれており、1644年から始まったようです。王府の9月の行事の一つとして、毎年国王以下役人たちが、首里城から普天間宮までの長い道のりを歩いてきたと言われています。

なぜこのような行事が始まったのか、いくつかの説があります。9月が災いの多い月であるので神の前に出て幸福を祈るためとか、薩摩の人に琉球の人が邪神を崇拝していると疑われたため、神を信じているということを証明するために始めた、などとも言われています。

このような普天間参詣は、国王や士族だけの習慣ではなく、宜野湾の人々にも浸透していたようで、「九



▲1924(大正13)年頃 宜野湾並松と一の鳥居



▲1925(大正14)年頃 拝殿

月参り」といって、家族の健康を祈願するため、毎年9月（特に9月9日）に普天間宮に参詣していました。また故郷を離れて遠くに旅立つ際は、普天間宮やその他の神社・寺を巡り、安全を祈願する習慣があったようです。現在でも、毎年旧暦9月15日には普天間宮で「例大祭」（例祭）が催されており、地域の方々の踊りなどが披露されています。

宜野湾には、かつて「宜野湾並松」と呼ばれる、天然記念物にも指定された程美しい松並木が続いていました。この松の木々が伸びる中を、普天間宮に向けて琉球国王の行列が通っていく、そのような光景が、宜野湾の秋の恒例だったのかもしれない。

「宜野湾市史」へのお問い合わせ
教育委員会 文化課 ☎8933-14430